

第12回 FMくらら857放送番組審議会議事録

1. 開催日時 平成29年9月26日(火) 11時00分～11時54分

2. 開催場所 ケーブルテレビ株式会社

3. 委員出席

審議委員総数 8名

出席委員数 5名

■出席委員(敬称略)

茅原 剛 会長(栃木市総合政策部長)

岸 英司 副会長(栃木商工会議所事務局長代行 総務課長)

高橋 一典 委員(栃木市教育委員会教育部長)

高崎 尚之 委員(栃木市産業振興部長 栃木市観光協会専務理事)

増山 政廣 委員(栃木市消防本部消防長)

■放送事業者側出席者

高田 光浩 (ケーブルテレビ株式会社 代表取締役)

村上 正子 (ケーブルテレビ株式会社 取締役)

木村 嘉孝 (コンテンツ部課長)

清水 研児 (コンテンツ部FMグループ係長)

世取 山大輔 (コンテンツ部FMグループ)

4. 報告事項

事業運営状況に関する報告に続き、対象番組等について、各委員より感想・意見・疑問点等を挙げていただき、他の委員と意見を交わす形式にて議事を進行した。必要に応じて放送事業者側出席者が説明・回答した。

5. 議事

①9月11日(月)17時放送「関東・東北豪雨から2年」

(事務局) 2015年9月に起きた「関東・東北豪雨」を振り返り、災害の恐ろしさを改めて認識し、防災意識の向上を意図した番組。部屋小学校・校長の阿部悦子さんと、宇都宮地方气象台・防災気象官の辻本嘉大さんをゲストに迎えお話をうかがった。

- (委員) 安心・安全な街づくりを目指す中で、このような番組はありがたい。災害現場で支援する側の仕事が分かったし、2次的3次的な被害についてもよく分かった。生放送で仕方がないと思うが、一部不適切な表現があったのが残念だ。質問の内容に出演者が答えられなかった場面などで、事前の打ち合わせをより入念にすべき。
- (委員) 災害から現在までの2年間の思い出した。ゲスト2人の話がとても上手で絶妙な掛け合いだった。気象の内容もためになった。
- (委員) 当時の振り返りが多かった。対策の方に重きを置いてよい。
- (委員) 記憶を呼び起こすのも大事と思った。災害を忘れないためにも、こうした番組を定期的に放送するのは大切。栃木市の担当者が出演してもよかったのではないかな。
- (事務局) 事前の打ち合わせ、質問内容の擦り合わせが足りなかった。番組の構成をより考え、今後の特別番組に生かしていきたい。前回の審議会で「番組の宣伝に力を入れるべき」という指摘があったが、今回の放送では宣伝の効果があつてか、番組開始前に関連するメッセージの投稿があった。これを踏まえ、引き続き番組告知・宣伝に力を入れていきたい。

②8月12日(土)12時放送「ひるなびサタデー」

- (事務局) レギュラー番組中のリポートの様子。8月の巴波川遊覧船の賑わう様子をリポートした。他県からの観光客や船頭さんへのインタビュー、また「船が出るぞ～」という現場の音を聞かせた。
- (委員) 心温まる内容でとてもよかった。もう少し現場の雰囲気伝えられればなおよかった。電話リポートのせいかな、音質がよくなかった。
- (委員) 最初に遊覧船の内容についての説明が欲しかった。まだ乗ったことのない人への説明が欲しい。例えば遊覧船の値段など、情報がまだ不足している。
- (委員) 臨場感があった。「シビックプライド、郷土愛」を市民の方に伝えるのによかった。
- (委員) 利用される方は圧倒的に栃木市外の方が多いと聞くが、今後このFM くらら 857 の放送で、あらためて市民の方にもこのような観光をPRできたらいい。
- (事務局) 放送では、様々なリポートが入ります。栃木市内の行事にお邪魔して、もっと回数を増やしていきたい。聴いている方は何が知りたいを常に意識して指示を出す。生放送だけではなく、録音の方がふさわしい場合もあります。またリポートについては、店舗・イベント数の統計も、次回の審議会で資料として提示したい。

③FMくらら857全体について

(委員) Jアラート(全国瞬時警報システム)への対応はどうか。

(事務局) 栃木市からの情報を受けて、防災ラジオを自動起動させて放送しています。また2017年10月よりケーブルテレビ株式会社として、直接受信できるようになりました。

6. 審議機関の答申又は概要の公表

FMくらら857ホームページに掲載(平成29年10月掲載)

■次回の日程開催

11月28日(火) 午後3時予定